

令和4年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(計画段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。</p> <p>2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。</p> <p>3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。</p>	<p>〔成果〕</p> <p>1 基礎基本の定着に重点を置いた授業を展開するとともに、多様な生徒の個々に応じた支援・指導を進めることができた。</p> <p>2 教育活動におけるICTの利活用を進めることができた。</p> <p>3 専門教科の教育の充実と、学科間の連携や地域と連携した活動を進めることができた。</p> <p>〔課題〕</p> <p>1 個々の課題に応じた支援・指導の充実を図り、観点別評価の実施に伴う個々に応じた学習支援と支援の充実を図る。</p> <p>2 働きながら学ぶという目標のもと、就労率の向上を目指す。</p> <p>3 美山分校の教育内容の広報活動の充実を図る。</p>	<p>1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。</p> <p>2 農業科と家政科の専門学科の特性を生かした取組を充実させるとともに、両学科が連携した取組の推進にも積極的に取り組む。</p> <p>3 生徒個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。</p> <p>4 働きながら学ぶという目標のもと、生徒の就労支援を積極的に行う。</p> <p>5 定時制教育や専門学科の利点を生かし、生徒の社会性獲得を図る。</p> <p>6 新学習指導要領に基づく新たな教育課程の成果と課題を検証し整理する。</p> <p>7 個に応じた充実した支援・指導を継続しつつ、観点別評価への移行を図る。</p> <p>8 広報活動を積極的に行い、地域と連携し、外から見える学校づくりを進める。</p> <p>9 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。</p> <p>10 安心安全な学校づくりを進める。</p> <p>11 ICTの教育への効果的な利活用を進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質・能力の向上を図る	自己の課題を明確にし、校内の研修を充実させつつ校外での研修の機会を活用し、教育力の向上に努める。		
		教育実践の成果と課題を日常的に整理し、教職員の交流を通じて指導力向上につなげる。		
	教職員連携や専門家との連携により、ICTを活用した指導力を高める。			
	組織的な指導体制を確立する	情報共有を積極的に行い、分掌間や担当間、管理職などとの継続的な連携を図る。		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	小規模校の強みを生かし、分掌間の連携を強め、計画的な教育実践によって教育目標の達成を図る。		
		学科に応じた特色ある教育課程を編成する。		
	生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成する。			
	生徒の進路実現に向けた教育課程を編成する。			
新学習指導要領に則した教育課程の編成と観点別評価の実施	新学習指導要領が導入されて2年目になる本年度においては、最新の情報を入手しつつ効果的な編成ができるよう努力を継続する。			
観点別評価が滞りなく進められるように努める。				
教科指導	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。		
		授業公開を通して課題を明確にし、授業改善を図る。		
	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、学期ごとに年間指導計画の点検と見直しを行う。		
学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を可能にする工夫をする。				
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画のもと、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。		
		他学年や各分掌と連携しながら、各学年の生徒状況に応じた、適切なホームルーム内容になるよう努める。		
	主体的な生徒会活動、創意工夫した学校行事の運営	生徒の意見が反映された学校行事になるよう創意工夫をし、行事を通して生徒が満足感、達成感を感じられるような。生徒主体の取組になるよう努める。		
生徒会や各局の日頃から活動を通して、生徒同士や教職員とのつながりを深め、よりよい学校生活にする。				

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導	「働きながら学ぶ」を実現できるよう指導する	就労先との連携し、課題があれば課題改善に向けた取組を行うなど、就労継続を目指す。 不就労生徒への援助・指導を行い、就労に必要なスキルを高める。		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。 支援を要する生徒の進路を関係機関と連携して決定していく。 3年生の進路意識高揚に努める。		
生徒指導	問題事象の未然防止や早期発見ができる体制を構築する。	日頃から生徒とコミュニケーションをとり、丁寧に生徒と関わりを持つことで、教職員との信頼関係を深め、教職員に対してどんなことでも相談しやすい雰囲気をつくる。 各分掌や教職員と連携を密にし、生徒の状況把握に努め、問題事象の未然予防や早期発見につなげる。 地域や関係機関と連携し、問題事象に適切に対応するよう努める。		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。 いじめや他人を傷つける言動は、絶対に許さないという強い姿勢で指導する。 あいさつの励行、適切な言葉づかい、適切な服装の着こなしができるように指導する。		
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。 全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、実践的態度を育てる学習を行う。 人権教育の科学的認識を系統的に育てるため、教科学習の指導を充実させる。 人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。		
研究・研修	教科指導力・生徒指導力の向上に努める。	学校の課題を明確化し、課題に合わせた研修を実施することで、指導力向上を目指す。 定通研における研修・協議を校内でも共有し、指導力向上を目指す。 校外での研修機会を活用し、指導力向上を目指す。		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める課題を持つ生徒に適切な支援をする	生徒1人1人と丁寧に向き合い、自分の言葉で自分の生活や身体の状態について話せる力を身につけられるよう対応を行う。 生徒の特性を理解し、適切な支援ができるよう関係機関等との連携を大切にする。		
施設・設備管理	施設設備の点検を日常的に行い、安全管理を徹底する。	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。 防災教育を計画的に進める。 適切な教育環境の維持や、設備改善、安全管理の徹底を図る。		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、知識や思考力を身につける	座学では、農業に関する知識の蓄積や、科学的な考察のしかたを学ぶ。また、実験・実習を通して体験的、実践的な農業教育を展開する。 実験・実習を通して、集団内での連携・協調を促す。 学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。		
	校内外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	家政科との連携を強化し、美山分校の教育活動全般を活性化させる。 農業クラブ活動（競技会成績・資格取得・関連行事等）の活性化を目指す。 農場生産物の品質向上を目指すとともに販売を積極的に行い、地域への貢献を促進する。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
家政科	家庭の生活やそれに関わる産業に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	個々の適性に合わせた指導法、教材を研究し、基本的知識と技術の定着につなげる。		
		外部講師を活用した体験的かつ専門的な学びの機会を設定する。		
		課題解決的な学習を通して、主体的に学ぶ態度を育て、生徒一人ひとりの達成感につなげる。		
	農業科と連携し、地域とつながり、地域社会の活性化に貢献する取組となるようにする。			
学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	持続可能な社会の実現について深く理解し、研究したことを実践し、発信する力をつける。			
第1学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	授業に集中できるように学習環境を整え、基本的学習習慣を身につけるとともに、基礎的な学力の定着を目指す。		
		主体的に考え、自分の責任で行動をするという意識を持たせるように努める。		
		他人を思いやる気持ちを育む学級運営をする。		
		HR活動・学校行事に積極的に参加できるように働きかける。		
第2学年	基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	基本的な生活習慣を身につけるためのソーシャルスキルトレーニングを行う。		
		個々の生徒の実態や発達段階に応じた指導を行う。		
	他者との関わりを通してよりよい人格の形成を目指す。	他人を思いやる気持ちを育み、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける。		
		HR活動・学校行事等への積極的な参加に繋がる指導を行う。		
第3学年	学校の一員としての自覚を持たせ、各自の特性を生かしながらそれぞれの力を発揮できる場を増やす	集団の一員であることの自覚を促し、各自の行動に責任を持つよう指導する。		
		クラスメイトそれぞれの特性を理解し、それぞれが活躍できる場を設ける。		
		学校行事等に積極的に取り組み、小さな成功体験を積み重ねることで自信につなぐ指導を行う。		
	卒業後の進路実現を見据え、自己理解を深めるとともに自律的な行動ができるようにする	生徒が自分の興味関心の方向性や能力を理解し、進路選択につなげることができる進路指導を行う。 現在の自分の行動が将来につながることを理解し、自律的な行動を心がけるように指導する。 将来に明確な指針を持てるように社会について学ぶ機会を持たせる。		
第4学年部	自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を定め、進路実現できるように指導する。	自己を見つめ、自分の持つ能力や個性に応じた目標を定め、進路実現できるよう指導する。		
		卒業後の生活に目を向け、社会人として必要な知識やソーシャルスキルを日々の学校生活をとおして身につけることができるよう指導する。		
		進路実現に向けて、主体的に考え行動できるよう指導する。		
	人との関わりや学びを通して、よりよい人格の形成を目指す。	社会人としての規範意識を確立し、自律の精神を大切にできるよう指導する。 最高学年としての自覚を持ち、学校全体のことを考えて行動できるよう指導する。		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	基礎学力の定着を図り、他者との関わりの中で伝え合う力を育む。	基礎学力の定着を図る。 個々の生徒の実態た発達段階に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。 「話すこと・聞くこと」の学習の充実を図る。 様々な文章に触れられるように、読書習慣の定着を図る取組をする。		
数学科	生徒一人一人の学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。 プロジェクターを利用して視覚的にも分かり易い授業を行う。 考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないように配慮する。 理解が不十分な生徒には個別指導を行う機会を設ける。		
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上、健全な心身の発達を目指す。	体育分野を通して、体力や運動技能を向上させるとともに、運動に対する知識理解を深める。 体育分野を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。 保健教科を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。 保健教科を通して、環境問題・健康問題について思考・判断できる教養を身に付ける。 レポート作成の課題を通して、環境問題や健康にに対する知識理解を自ら深めるとともに、他者に伝える力を養う。		
英語科	中学校での学習を土台にししながら、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。 言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。 英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。 必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。 選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。		
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係教育機関との連携、協力を進める	面談・家庭訪問、学校行事などの機会を活用し、家庭・保護者との連携を深める。 地域の人材や関係諸機関の機能を活用し、地域に貢献する活動を進める。 パンフレットやホームページを活用し、広報に努める。 育友会事業を通じて、家庭教育を支援し、充実を図る。		